



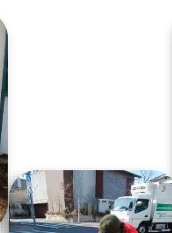
平成30年度国立市市民表彰 環境保全功労 飯島好子氏

～自分の住む街だから自分たちで美しく～

○KGC（北福祉館ガーデニングクラブ）誕生のきっかけを教えてください。

北福祉館は、蚊に刺されながらの裏庭の草取りや植栽の山茶花にチャドクガが発生するなど、維持管理に悩まされていました。地域の自治会や四小 PTA 等で構成されている北福祉館運営委員会で改善策を話し合い、草を抑えて歩きやすくするために平板を敷き、植栽を整理して花壇への造り替えを有志で実施しました。

これを機会に、広く整備をしたいと市役所に相談したところ、道路改修で不要になったインターロックや東京都下水道局北多摩第一再生センターの下水汚泥処理で作られた無焼成ブロックを無償提供していただきました。試行錯誤の末に、皆が力を合わせて完成させた北福祉館の裏庭は、長年の悩みを解消し、現在は多目的空間として利用されています。共同作業がきっかけとなり、平成20年1月にKGC（北福祉館ガーデニングクラブ）を立ち上げ、現在は13名の会員で活動しています。清掃や花を育て植えるなどの毎月2回の定例会の他に、地域の男性の方々が剪定や力仕事を手伝ってくれます。近くには、車道と歩道の間に市の道路交通課が管轄する三角形の土地があります。ここも許可を得て、花壇に整備し直しポケットパークにしました。北福祉館前庭と共に、季節ごとの花が香り、目を楽しませて、多くの方々に小さなオアシスとして喜ばれています。「自分の住む街だから自分たちで美しく」の気持ちです。



○国立市の自然や緑における街の魅力を教えてください。

大学通りの桜並木やさくら通り、そして徐々に形成される北地域の緑は、他市にはない景観で、市民にとっても魅力的です。全国で4番目に小さい面積の国立市ですが、減ったとはいえ南部地域には森や田んぼもあり、緑地が広がっています。くにたち郷土文化館の近く、古民家の隣に『城山さとのいえ』ができ、環境政策課や国立市観光まちづくり協会などのイベントが企画されています。若い方々や家族連れの参加が、年々増えており、喜ばしいことです。南部地域では、区画整理や遊休土地への施設誘致が進みつつありますが、緑地帯は貴重なもので、地元農家のご努力で新鮮な地元野菜も手に入るのも、魅力の一つと言えるでしょう。

○国立市の街に期待することを教えてください。

旧駅舎の再築工事が始まりました。市の財政を消費するのではなく、お金を生み出すような利用を考えてほしいです。例えば、他市からの往来が増加し、商店街の活性化につながる。市民にとって足を運びたい、学生たちにとってメリットのある場所。くにたちの街にふさわしいアイデアとしてピアノを置き、自由に誰でもが弾けるコーナーなど多くの人たちに歓迎されるような有意義な活用を期待しています。

○今後の展望を教えてください。

国立駅周辺は、JRの高架化工事に伴い、少しずつ変貌を続けています。北口では、バス発着場所や通路などの整備が終わり、一角には、桜の木を囲んだ円形ベンチが3か所も設置されて憩いの場所になります。そして、南口には旧駅舎が再築されます。旭通り、富士見通り、国立市玄関口の正面には大学通りがあります。この特有の景観を生かした総合的な駅前広場を作り、三本の街路のそれぞれ特徴を生かした元気な商店街が発展したら嬉しいです。市の内外を問わず、いろいろな年代の人たちが、安心して行きかう街並みを目指して、さらに進化させるために専門家の意見も聞いて、花と緑と水の美しいまちづくりを進めてほしいと思います。

※本記事は、平成31年2月に行ったアンケートの内容を記事にしたものです。